

校訓

正しく 明るく 健やかに

令和6年1月16日



奇跡

1月9日（火）、久しぶりに合わせる顔と顔。寒さが身に染みるが爽やかな日差しの中、「おはよう」のあいさつとともに笑顔が溢れる。入試を間近に控える3年生の顔は、キリッとしていた。Zoomによる始業式。先月末の終業式は学級閉鎖もあり、3学期のスタートが心配されたが、ディスプレイに映る子どもたちの落ち着いた様子に一安心。

令和6年のスタートは、災害と事故に見舞われた。私たちはそれを教訓として受け止めなければならない。“奇跡の18分”として海外メディアで報道された羽田空港での事故。ほとんど満席であった日航機の乗員乗客379人が18分間で全員脱出した。この状況下で全員脱出を達成したプロセスについてJALの会見によると、非常ドアの操作などの緊急脱出訓練は全乗務員が年に1回、丸1日かけて行い、ブラッシュアップしているとのこと。また、乗客の多くが、CA（客室乗務員）の指示に従い冷静に行動したこと。迫る恐怖のなか、乗客の方がプロの判断をしっかりと仰いでいたことも、“奇跡の18分”を生み出した要因のひとつであるといわれている。考えてみると、奇跡というものは起きるものではなく、起こすものであるように思う。乗務員のプロ意識とリーダーシップ、乗客の落ち着いた行動とフォロアーシップ。そして、一人一人が自分のことだけでなく、まわりのことを考えて行動していなければ、成し得なかったこと。極限の状況下に、そんな行動が自分たちにできるだろうか。改めて思う、「奇跡は起きるものではなく、起こすもの」。

本校の生徒会が新学期早々動き出した。能登半島地震災害支援募金である。生徒会長が呼びかけたところ、この募金運動のボランティアに協力したいという生徒がたくさん集まってくれた。先週の早朝、登校時に行われた募金運動で集まった義援金は、76,592 円。保護者の皆様、地域の皆様、ご協力いただきありがとうございました。